

# 2024年3月期決算説明資料

コージンバイオ株式会社

2024年6月7日



<b>I</b>	<b>会社概要</b>	P. 2
<b>II</b>	<b>2024年3月期 決算概況</b>	P. 17
<b>III</b>	<b>2025年3月期 業績予想</b>	P. 27
<b>IV</b>	<b>成長戦略</b>	P. 34

# I

## 会社概要



医療と健康に貢献するバイオ事業を世界へ展開

医療

細胞治療・再生医療

バイオ事業

組織培養事業  
細胞加工事業  
微生物事業

健康

病の予防・検査  
食の安全  
医薬品の安全

## 沿革

### 動物血液の販売から始まり、培地の開発・製造販売を経て、細胞加工に展開

- 1981年4月 動物血液・細菌検査用培地の製造、販売を目的にコージン（株）を設立
- 1986年4月 細胞培養用培地の製造を開始
- 1989年6月 コージンバイオ（株）に商号変更
- 1993年11月 「体外診断用医薬品製造業・製造販売業」許可を取得し、  
体外診断用医薬品の製造を開始
- 2005年1月 「化粧品製造業・製造販売業」許可を取得、化粧品の製造を開始
- 2009年1月 「医療機器製造業・製造販売業」許可を取得
- 2012年3月 エンバイオ（株）の全株式を取得し完全子会社化
- 2014年5月 中国上海に高金生物科技（上海）有限公司を設立
- 2015年7月 （株）ピルムの全株式を取得し完全子会社化  
（株）ピルムにて「特定細胞加工物製造許可（施設番号FA3150006）」を取得
- 2018年6月 味の素（株）との合併会社味の素コージンバイオ（株）を設立
- 2019年8月 連結子会社であった（株）ピルムを吸収合併
- 2024年4月 東京証券取引所グロース市場上場

#### 再生医療関連のイベント

1999年 薬事法に確認申請制度導入  
2001年 日本再生医療学会発足  
2003年 日本でヒトES細胞樹立

2006年 マウスiPS細胞樹立  
2007年 日本・米国でヒトiPS細胞樹立

2012年 山中教授ノーベル賞受賞  
2014年 再生医療等の安全性の確保  
等に関する法律施行



## 事業内容と売上構成

### 医療と健康に貢献する最先端のバイオ製品・サービスを提供

#### ■ 組織培養事業 (1986年4月～)

再生医療の研究機関に  
細胞培養用培地を提供

- 無血清培地をはじめとする細胞培養用培地を開発、製造・販売



- 理化学機器の販売
- 国内外で再生医療の市場が拡大  
自由診療領域の医療機関からの培地受注増加

#### ■ 細胞加工事業 (2015年7月～)

自由診療向けに、免疫細胞や  
幹細胞を受託培養

- 「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」に基づく特定細胞加工物製造



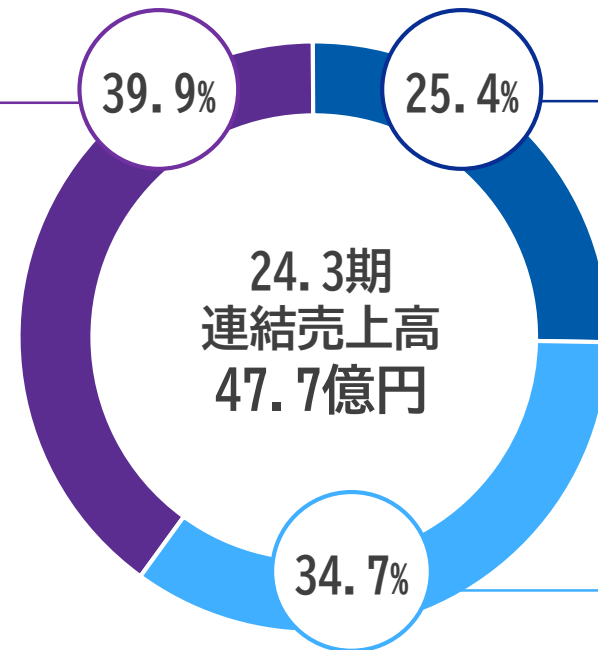
#### ■ 微生物事業 (1981年4月～)

様々な細菌検査用に、培地や  
新型コロナウイルス検査キット等を提供

- 臨床検査用・食品や医薬品・化粧品などの品質検査用の細菌検査用培地を開発、製造・販売



- 体外診断用医薬品の開発、製造・販売



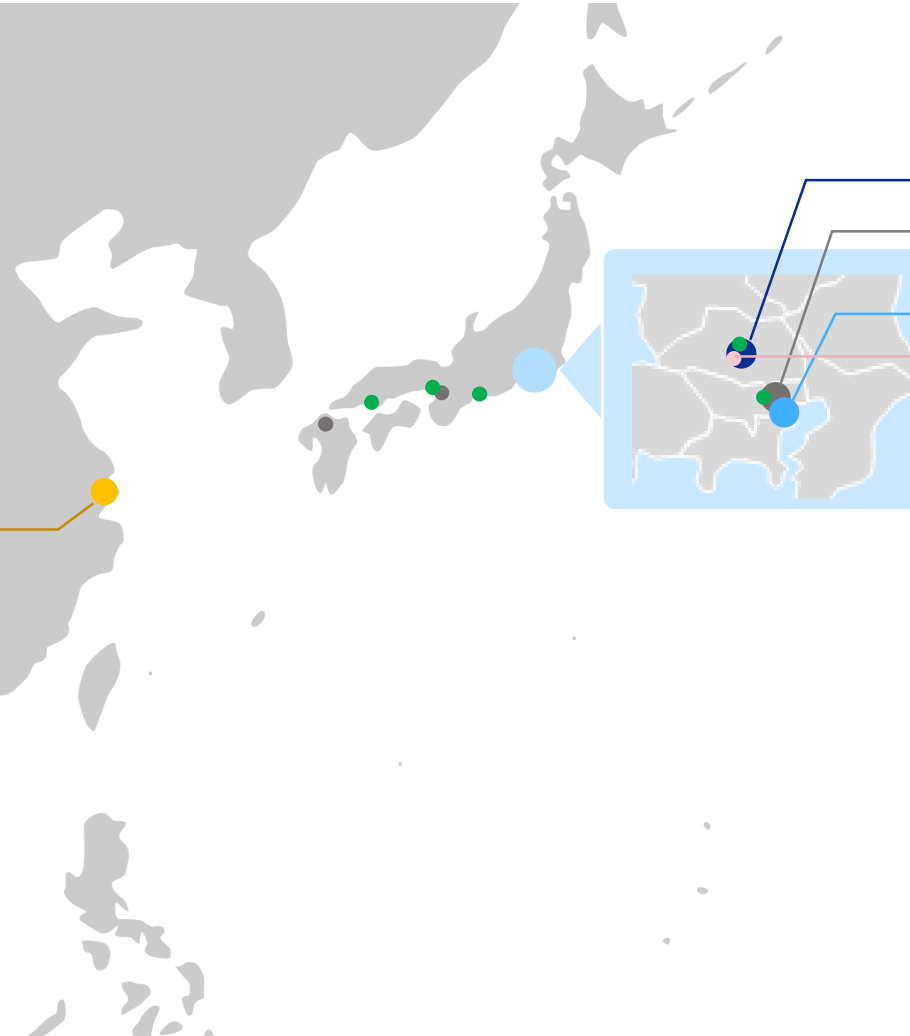
## 拠点・グループ

### 国内6拠点、アジア2拠点を展開

#### アジア



- 高金生物科技(上海)有限公司  
(製品輸出・製造受託)
- 孝仁生物控股(香港)有限公司



#### 日本

- コージンバイオ株式会社 (本社、埼玉県坂戸市)
- 東京オフィス ● 大阪オフィス ● 福岡オフィス
- エンバイオ株式会社
- 味の素コージンバイオ株式会社 (本社敷地内)



本社



味の素コージンバイオ

#### CPC (細胞加工施設)

- 坂戸CPC ● 池袋CPC ● 名古屋CPC
- 新大阪CPC ● 広島CPC

組織培養事業

1

再生医療の進展に貢献する独自のポジションと製品

細胞加工事業

2

自社培地とのシナジーで急成長する細胞加工事業

微生物事業

3

「病の予防・食の安全」を叶える、高い存在価値



## 培地とは

培地とは微生物（細菌）の生育や生物組織（細胞）の増殖のために人工的に作られた環境をいう。寒天などで固められた固体培地や、液体状で存在する液体培地などがあり、どのような細菌、細胞を生育、増殖させるかにより、培地の成分や形状は異なる。

### 組織培養事業



細胞培養用液体培地

### 組織培養事業



細胞培養用粉末培地

### 微生物事業



細菌検査用培地

## 細胞培養用培地における差別化戦略

### 世界の競合企業と遜色ない強力な製品群・他にない製品開発力

#### KBM ADSCシリーズ

- 再生医療に使用される細胞としては最も有力な細胞の一つである間葉系幹細胞を培養する主力製品



KBM ADSC-1 & 2  
(26,000円、23,000円)



KBM ADSC-4  
(45,000円)



KBM ADSC-5  
(55,000円)

#### KBM 500シリーズ

- 免疫細胞培養用培地は、当社の得意分野であり、高性能が高い評価を得ている
- 500シリーズは、T細胞を始めとする様々なリンパ球の培養に対応



KBM 550  
(15,000円)



KBM 550BEL  
(16,500円)

#### KBM Neural stem cell

- 脳梗塞等の治療で注目される神経幹細胞を培養

#### KBM VEC-1

- 様々な組織を作製する上で必須となる血管網の構築を促す血管内皮細胞を培養

#### KBM NHEK XF-2

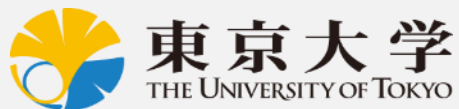
- 皮膚の再生に必要となる表皮角化細胞を培養

積み上げた研究機関・大学とのネットワーク

培地に対する高評価により、数多くの共同研究を推進

### 共同研究の事例①

臨床解析と要素技術の開発



社会連携講座「臨床幹細胞生物学講座」  
(2022年7月～)



### 共同研究の事例②

CAR-T細胞



固形がんを標的としたMAGE-A4,CAR-T細胞  
の調整方法および品質管理システムの  
基盤技術の構築に関する研究

CMO・CDMO事業へ

そのほか、多数の大学や研究機関、企業との強固なリレーションを構築

## 事業内容

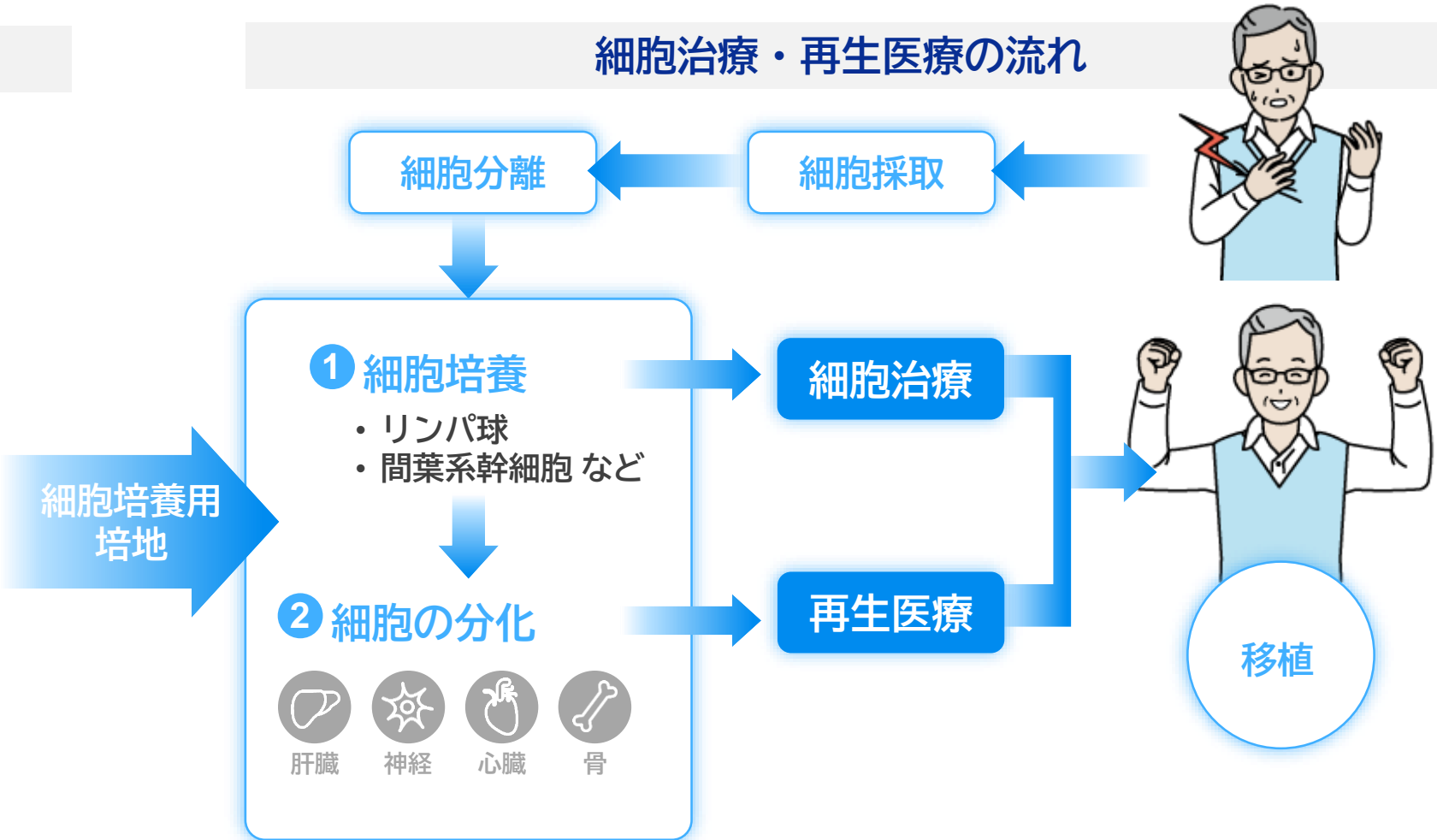
細胞治療、再生医療の研究や臨床利用、バイオ医薬品製造などへ細胞培養用培地を提供

### 細胞培養用培地

細胞を培養するために用いられる  
組織間液を模した液体



### 細胞治療・再生医療の流れ



## 特長と強み②

組織培養事業

1

再生医療の進展に貢献する独自のポジションと製品

細胞加工事業

2

自社培地とのシナジーで急成長する細胞加工事業

微生物事業

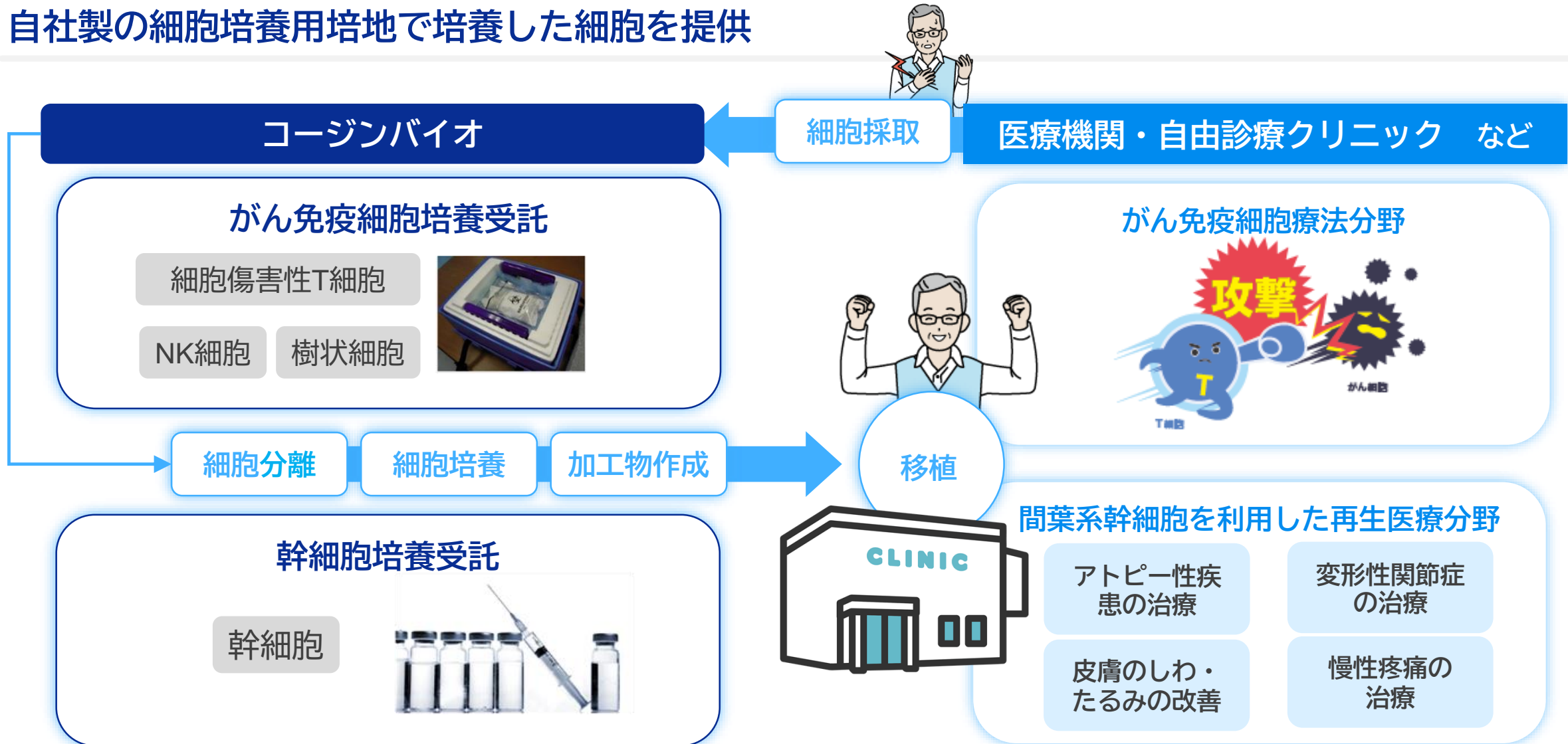
3

「病の予防・食の安全」を叶える、高い存在価値



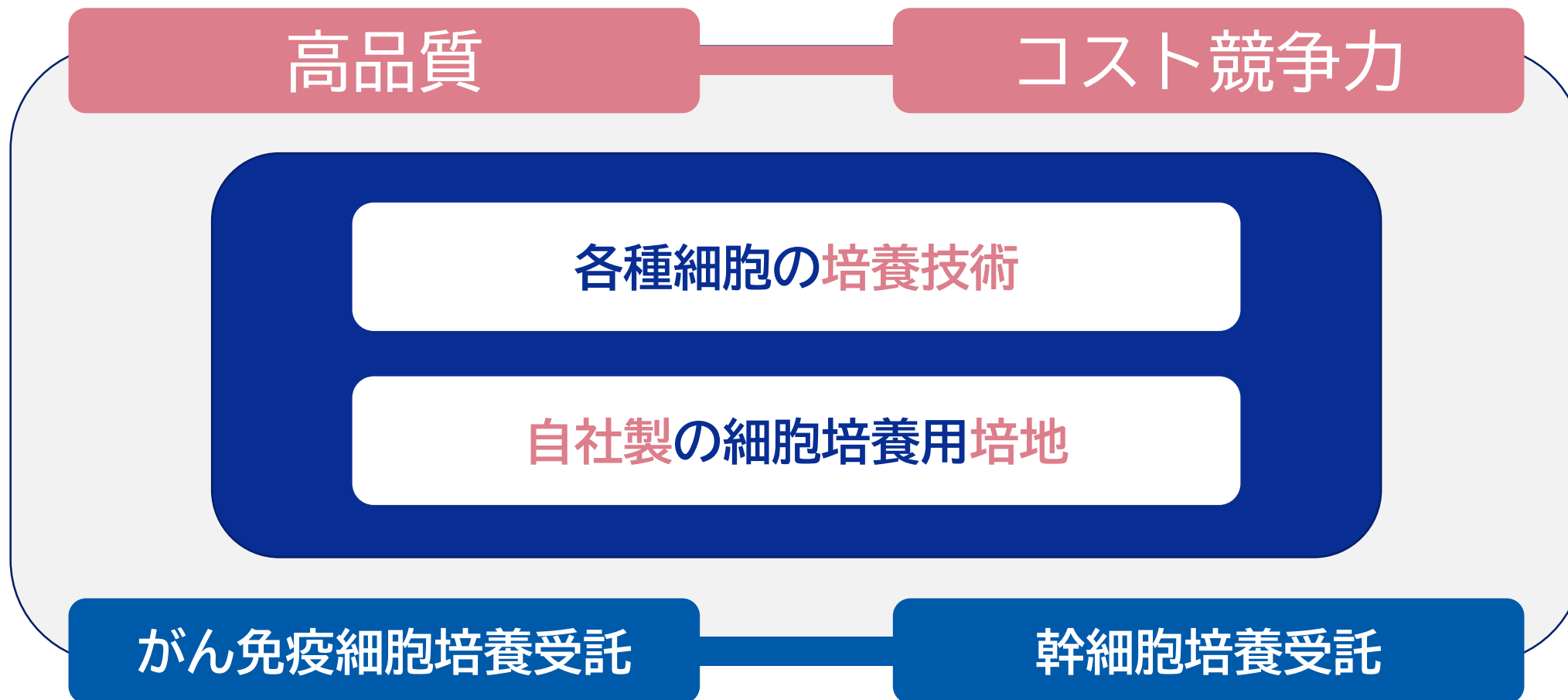
自由診療需要を捉え、再生医療の普及と知名度向上に貢献

自社製の細胞培養用培地で培養した細胞を提供



自社培地とのシナジーで急成長する細胞加工事業

高品質と高いコスト競争力により差別化



## 特長と強み③

組織培養事業

1

再生医療の進展に貢献する独自のポジションと製品

細胞加工事業

2

自社培地とのシナジーで急成長する細胞加工事業

微生物事業

3

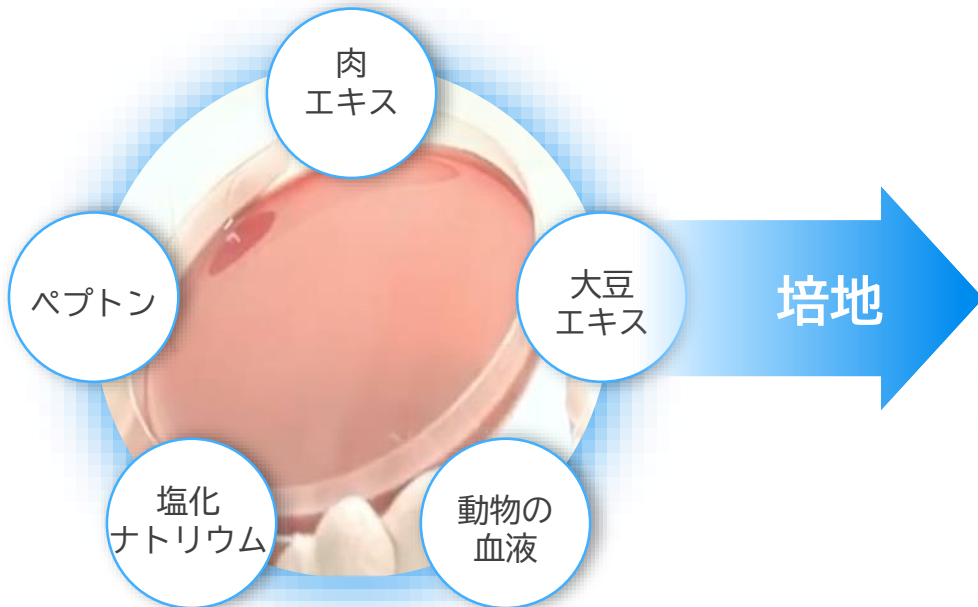
「病の予防・食の安全」を叶える、高い存在価値

## 事業内容

医療機関、食品企業や製薬企業など、様々な分野での細菌検査に使用される細菌検査用培地、および抗原検査キットの製造

### 細菌検査用培地

微生物が成長しやすいように、ペプトン、肉や大豆などのエキス、動物の血液、塩化ナトリウムなど、微生物の増殖に必要な栄養素を人工的に加えた環境



医療機関

疾患診断検査

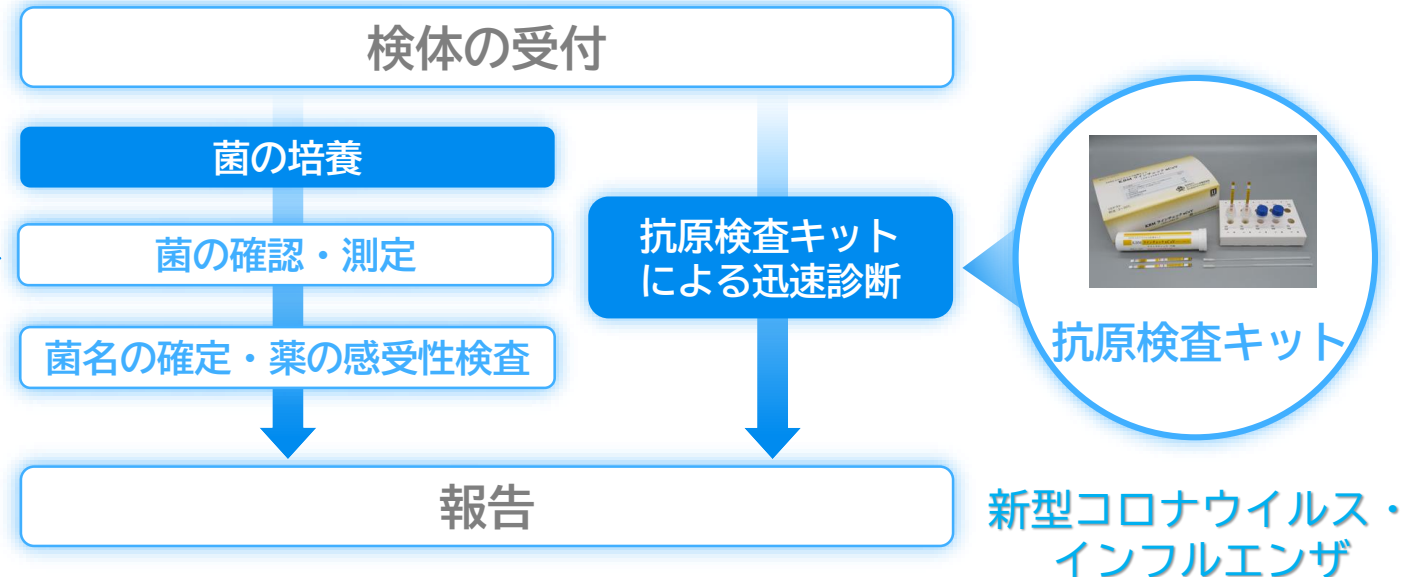
食品分野

病原菌検査

製薬・化粧品分野

環境菌検査

### 医療機関における微生物検査の流れ



## II

# 2024年3月期 決算概況



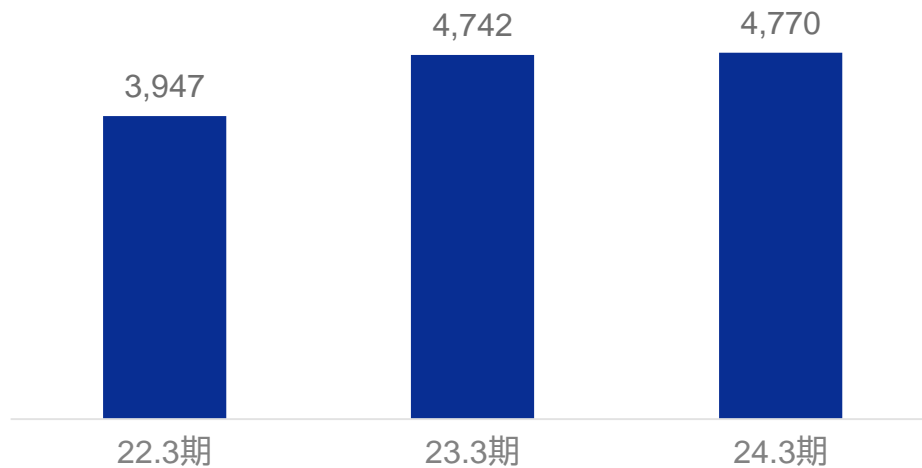


## ハイライト

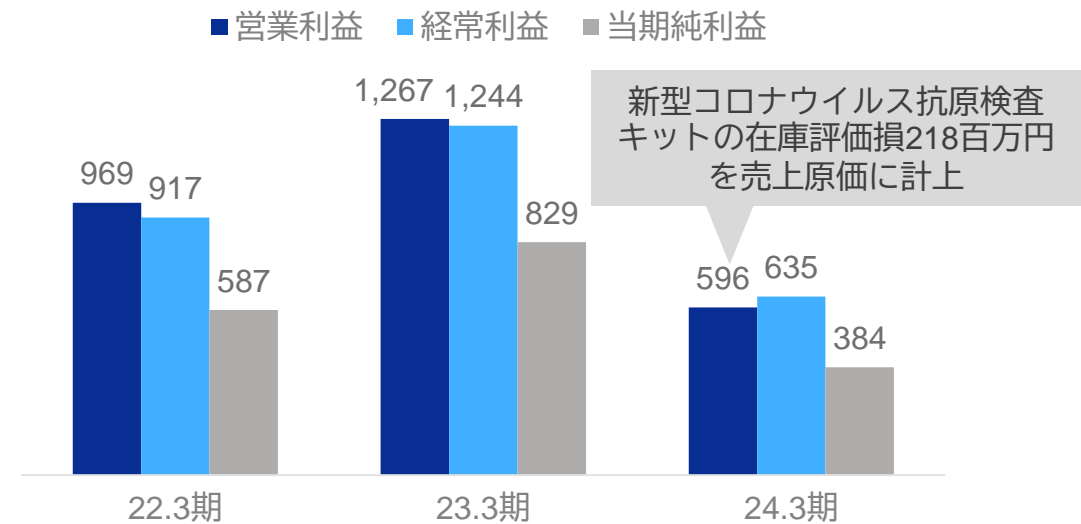
### 新型コロナウイルス関連の反動減により減益

- 前期比0.6%の増収、営業利益は在庫評価損もあり同52.9%の減益
- コロナの影響を直接受けなかった組織培養事業及び細胞加工事業は増収増益
- 2024年4月25日に東証グロース市場に上場、調達した約16億円（0A含む）は設備投資に充当し成長に弾みをつける

#### 売上高 (百万円)



#### 利益 (百万円)



## 連結業績表

### 新型コロナウイルス関連商材の特需的影響が薄れ利益減少

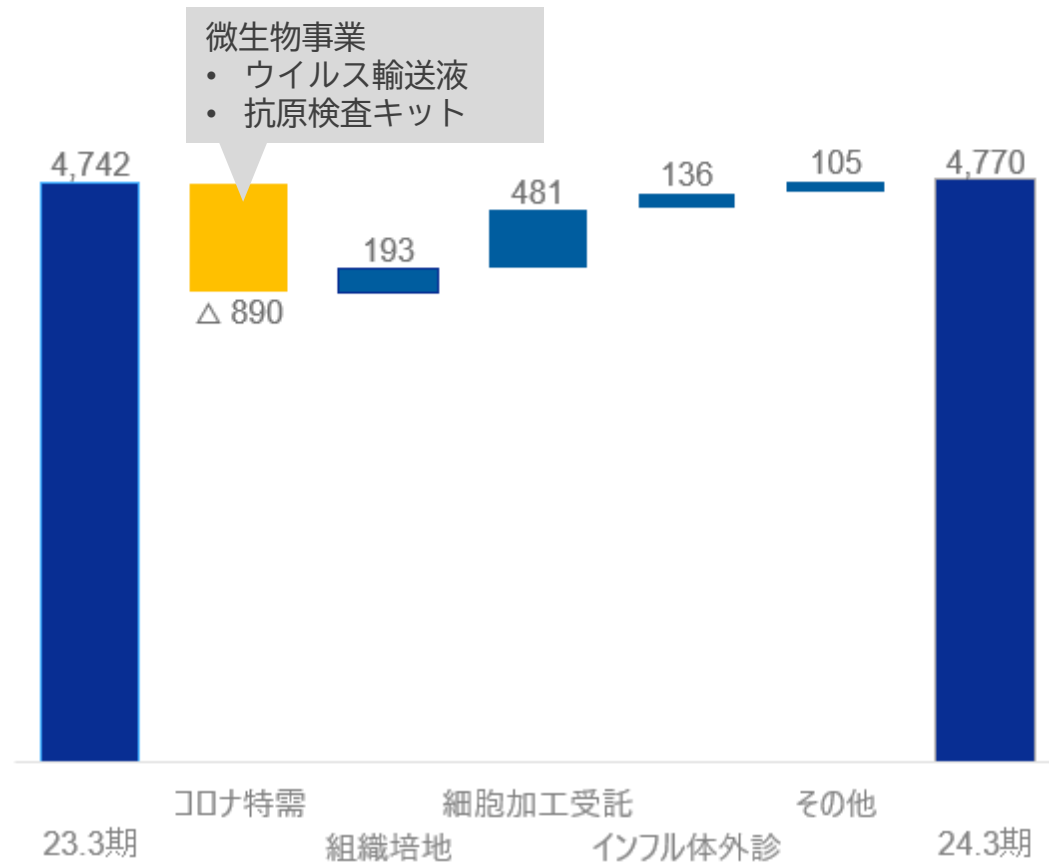
(百万円)

	23.3期 実績	24.3期					
		実績	増減額	増減率	予想	増減額	達成率
売上高	4,742	4,770	27	0.6%	4,724	45	101.0%
営業利益	1,267	596	△670	△52.9%	537	59	111.1%
営業利益率	26.7%	12.5%			11.4%		
経常利益	1,244	635	△608	△48.9%	560	74	113.3%
経常利益率	26.2%	13.3%			11.9%		
当期純利益	829	384	△444	△53.6%	289	95	133.3%
当期純利益率	17.5%	8.1%			6.1%		
一株利益	199.2円	92.4円	△106.8円		69.4円	23.0円	
一株配当	19.0円	14.0円	△5.0円		14.0円	0.0円	
配当性向	9.5%	15.1%			20.2%		

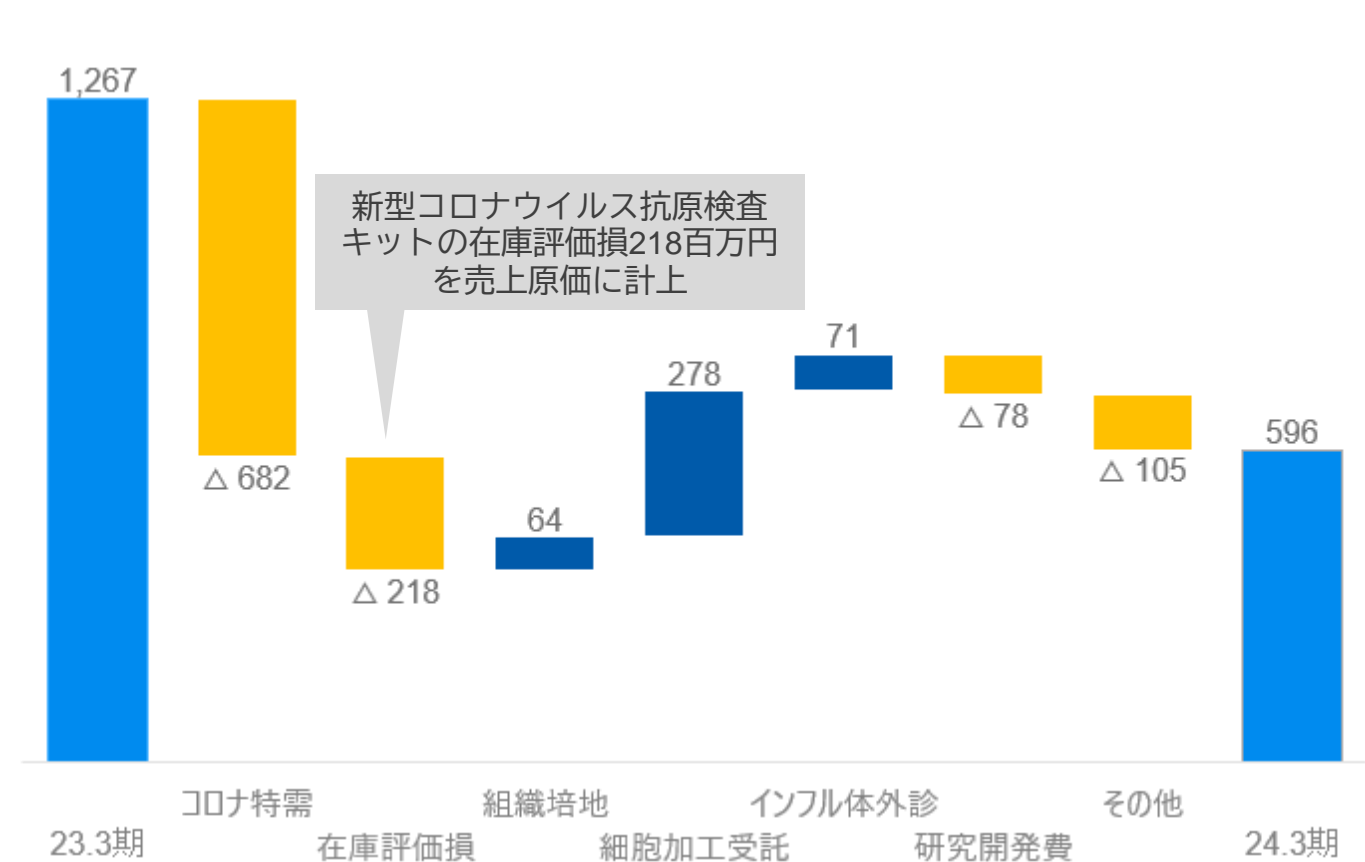
## 増減分析

### 新型コロナウイルス関連商材から組織細胞培養用培地・細胞加工受託が成長を牽引

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



## セグメント別業績

### インバウンドの回復に伴い細胞加工事業が大きく成長

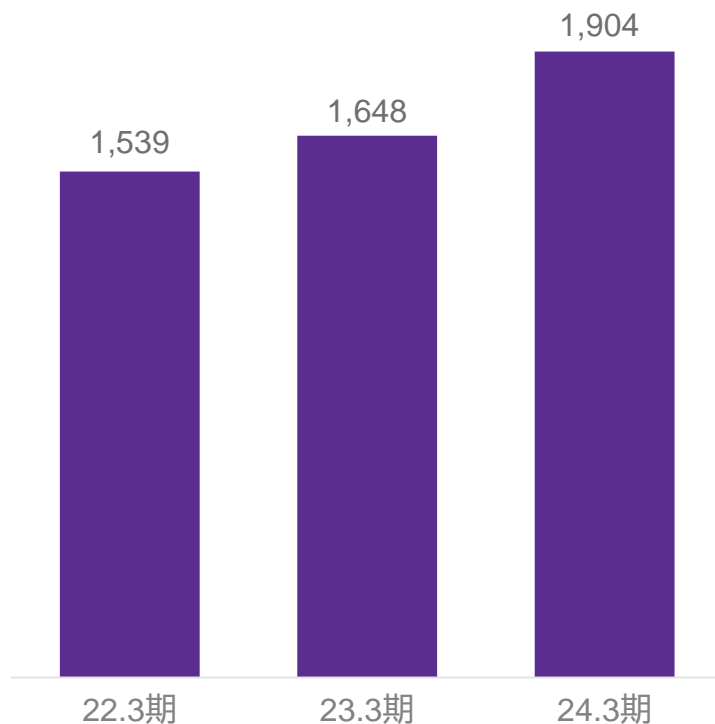
(単位：百万円)

		23.3期		24.3期		
		実績	構成比	実績	構成比	増減率
連結	売上高	4,742		4,770		0.6%
	営業利益	1,267		596		△52.9%
	営業利益率	26.7%		12.5%		
組織培養事業	売上高	1,648	34.8%	1,904	39.9%	15.5%
	営業利益	521	41.1%	609	102.1%	16.8%
	営業利益率	31.6%		32.0%		
細胞加工事業	売上高	697	14.7%	1,209	25.4%	73.4%
	営業利益	280	22.2%	472	79.1%	68.0%
	営業利益率	40.3%		39.0%		
微生物事業	売上高	2,396	50.5%	1,656	34.7%	△30.9%
	営業利益	818	64.5%	△69	△11.6%	-
	営業利益率	34.1%		-		

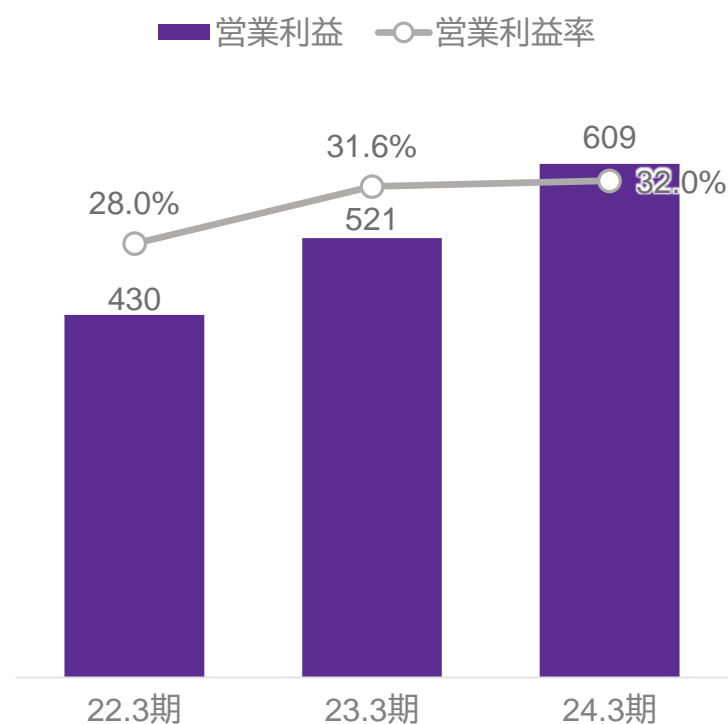
## 組織培養事業

- 前期比15.5%の増収、同16.8%の増益
- インバウンドによるメディカルツールの回復や、アジア圏で活発化する再生医療向けに細胞培養用培地の販売数量が拡大
- 新規契約先からの製造受託や既存顧客からの新規案件の受託が増加し、OEMも好調に推移

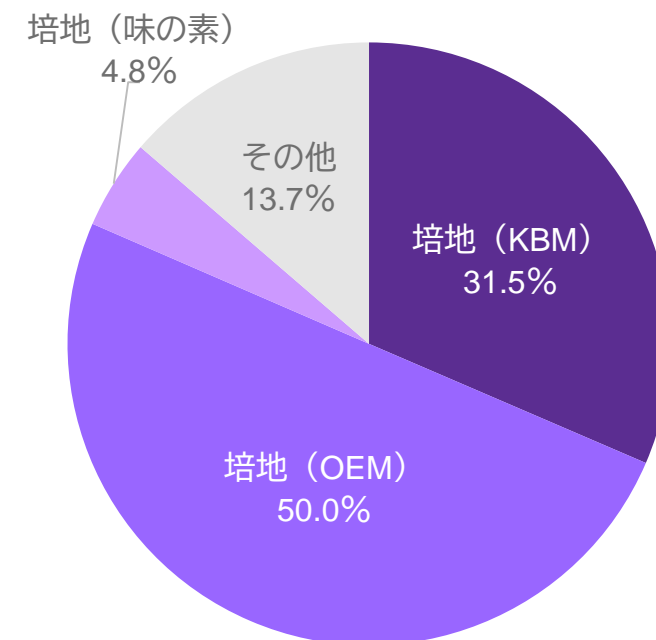
売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



売上構成 (品目別)

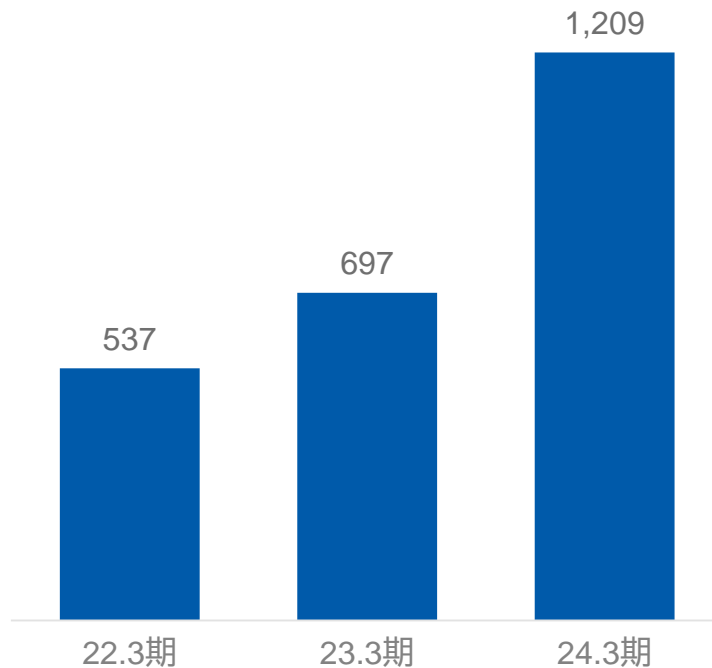




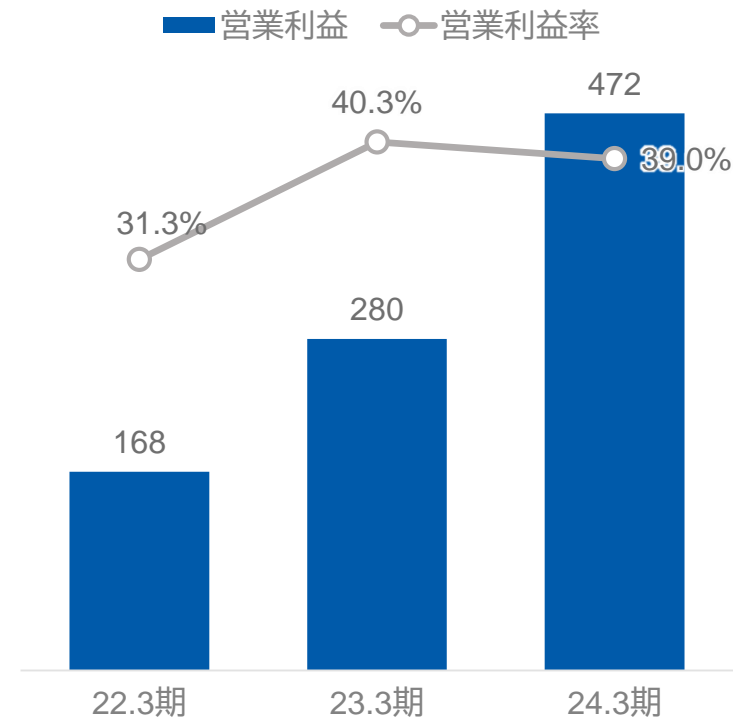
## 細胞加工事業

- 前期比73.4%の増収、同68.0%の増益
- インバウンドによるメディカルツーリズムの回復により、幹細胞の加工受託件数が大きく増加
- 細胞加工施設はフル稼働の状況

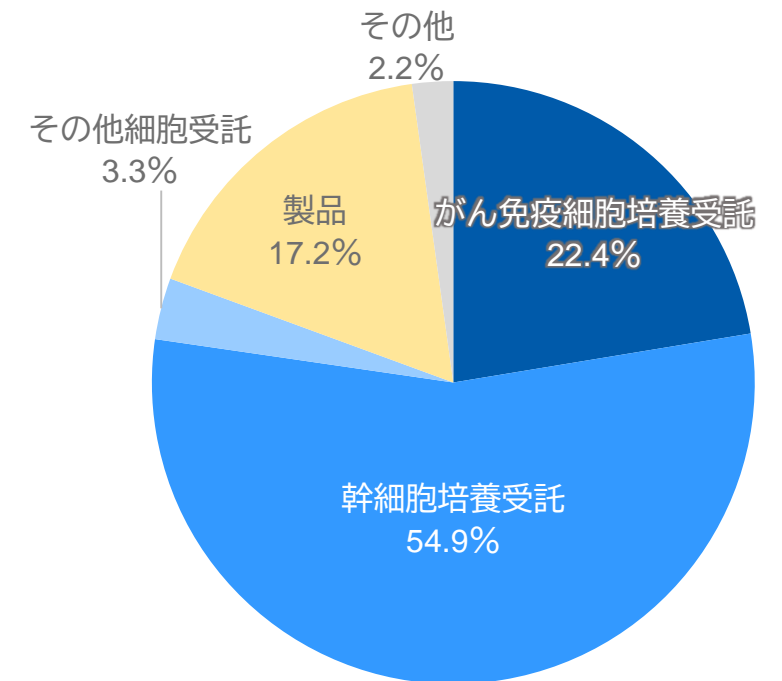
売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



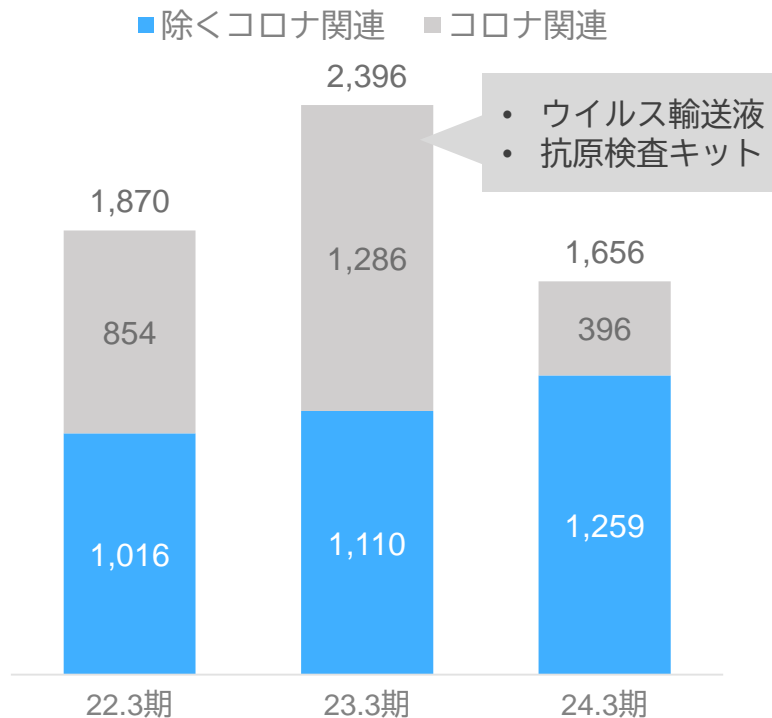
売上構成 (品目別)



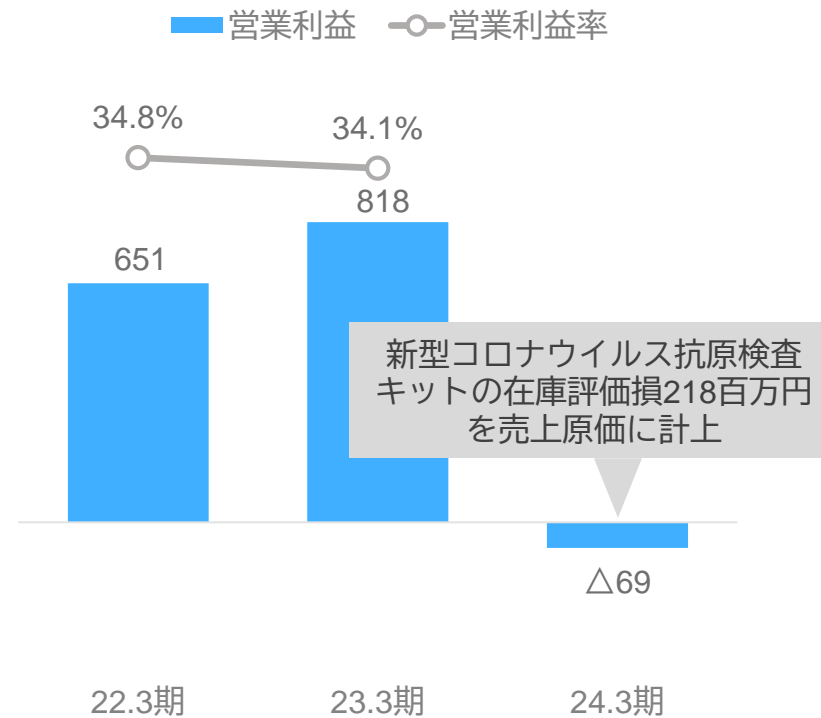
## 微生物事業

- 前期比30.9%の減収、69百万円の損失
- 新型コロナウイルス関連製品である抗原検査キット及びウイルス輸送液の売上が大幅減
- 製薬企業等産業分野での細菌検査用培地は、競合する海外輸入品と比較し、安定供給として評価をされる国内製造を強みとし、販売数が増加

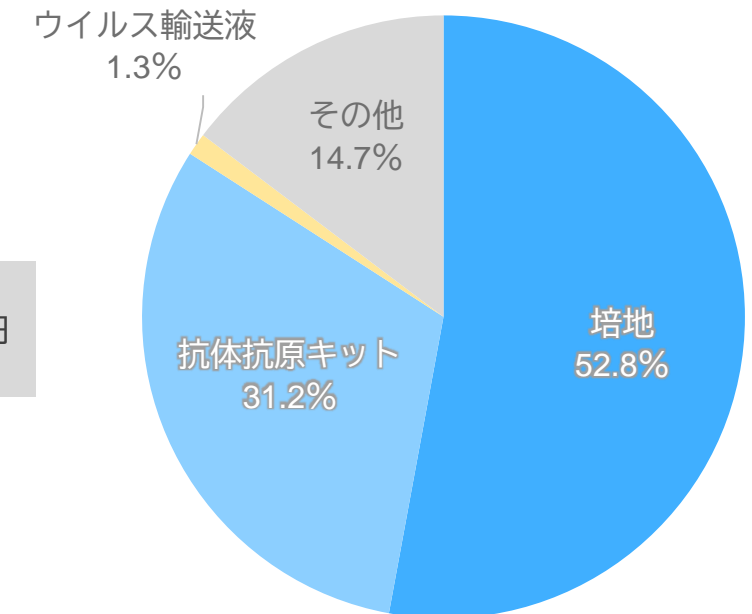
### 売上高 (百万円)



### 営業利益 (百万円)



### 売上構成 (品目別)



## 営業CFを設備投資に充てながら健全な財政状態を維持

連結貸借対照表 (百万円)

	23.3期末	24.3期末	
		実績	増減
<b>流動資産</b>	<b>3,478</b>	<b>3,409</b>	<b>△ 69</b>
現預金	1,462	1,726	264
営業債権	844	943	99
在庫	1,102	683	△ 419
<b>固定資産</b>	<b>2,655</b>	<b>3,179</b>	<b>523</b>
有形固定資産	2,171	2,586	415
投資その他の資産	479	589	109
<b>流動負債</b>	<b>3,021</b>	<b>2,398</b>	<b>△ 623</b>
営業債務	236	246	10
短期借入金	1,200	1,500	300
長期（1年以内）借入金	864	150	△ 714
<b>固定負債</b>	<b>95</b>	<b>848</b>	<b>753</b>
長期借入金	-	525	525
<b>純資産</b>	<b>3,017</b>	<b>3,342</b>	<b>324</b>
<b>負債純資産</b>	<b>6,134</b>	<b>6,589</b>	<b>454</b>

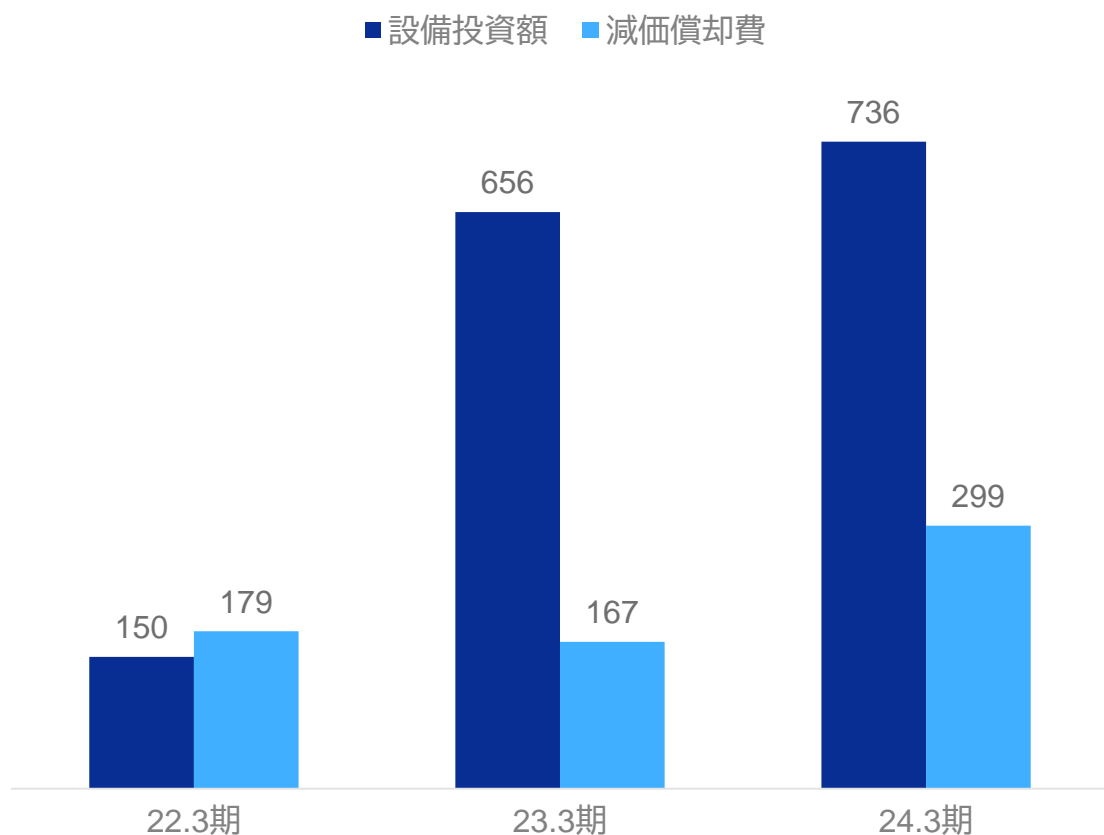
連結キャッシュ・フロー計算書 (百万円)

	23.3期	24.3期	
		実績	増減
営業CF	461	823	362
投資CF	△ 575	△ 577	△ 1
財務CF	△ 172	△ 1	170
CF	△ 271	264	536
期末残高	1,462	1,726	264

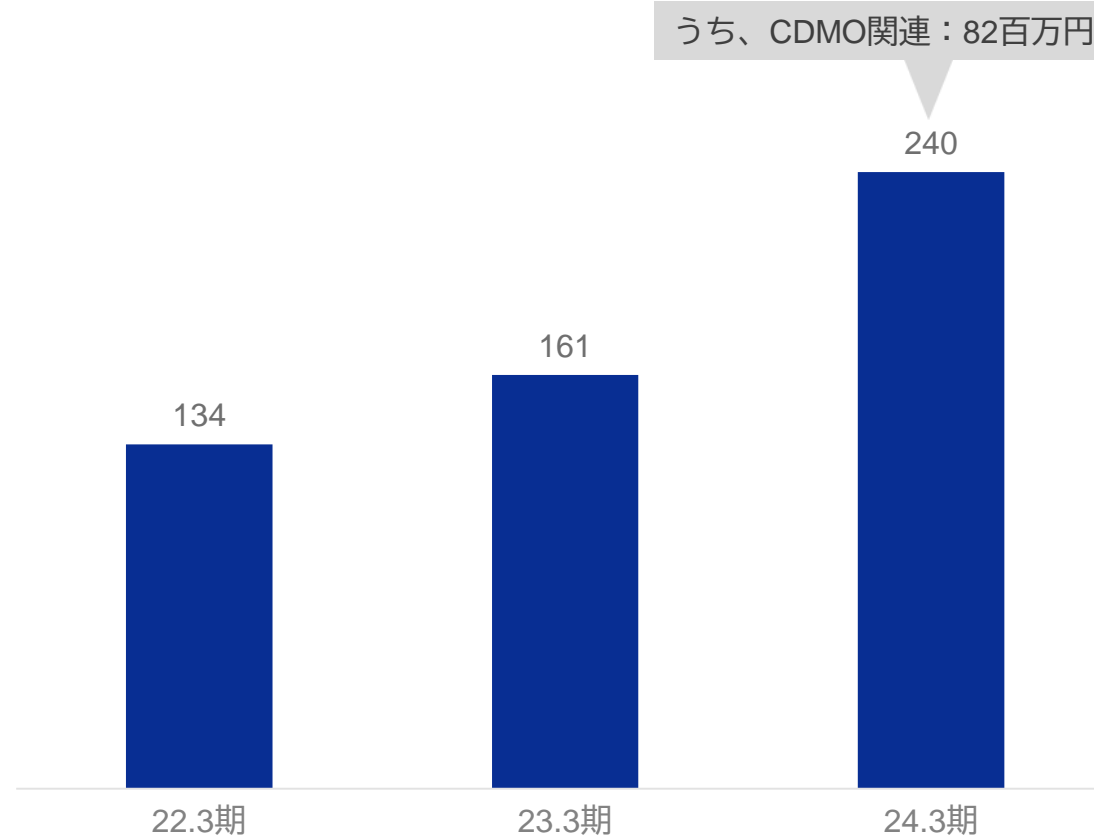
## 設備投資額、減価償却費及び研究開発費

### イムノクロマト抗原検査キットの製造設備の導入や、坂戸本社工場の高圧受電設備を更新

設備投資額、減価償却費 (百万円)



研究開発費 (百万円)



### Ⅲ

## 2025年3月期 業績予想



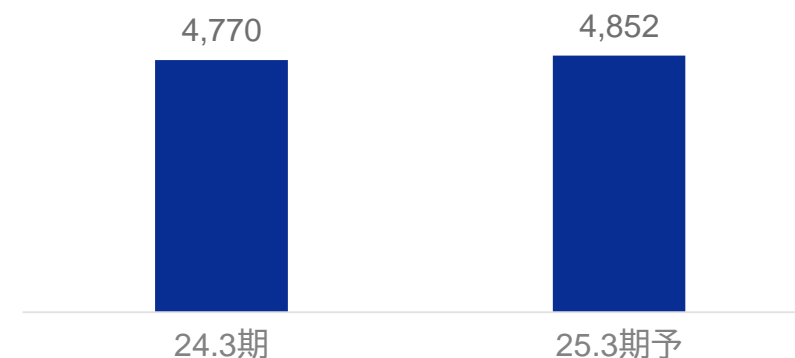


## 連結業績予想

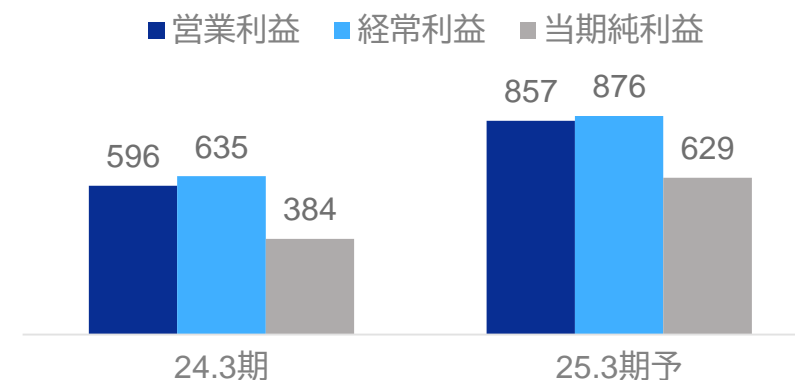
売上高は82百万円増収の4,852百万円、営業利益は43.7%増益の857百万円と予想

	(百万円)			
	24.3期 実績	25.3期 予想	増減額	増減率
売上高	4,770	4,852	82	1.7%
営業利益	596	857	260	43.7%
営業利益率	12.5%	17.7%		
経常利益	635	876	240	37.9%
経常利益率	13.3%	18.1%		
当期純利益	384	629	244	63.5%
当期純利益率	8.1%	13.0%		
一株利益	92.4円	124.8円	32.4円	
一株配当	14.0円	14.0円	0.0円	
配当性向	15.1%	11.2%		

売上高 (百万円)



利益 (百万円)

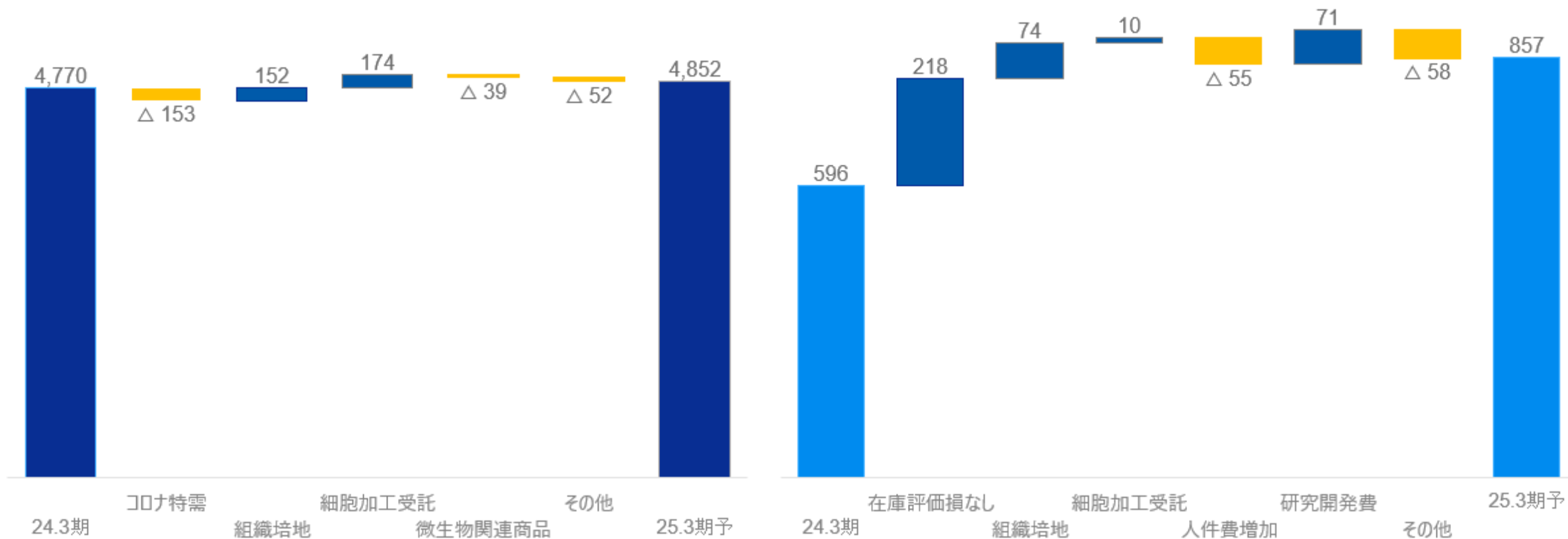


## 増減分析

### 25.3期も引き続き組織培養事業・細胞加工事業が堅調に推移

売上高 (百万円)

営業利益 (百万円)



## セグメント別予想

### 在庫評価リスクも一掃され、新たな成長を目指す

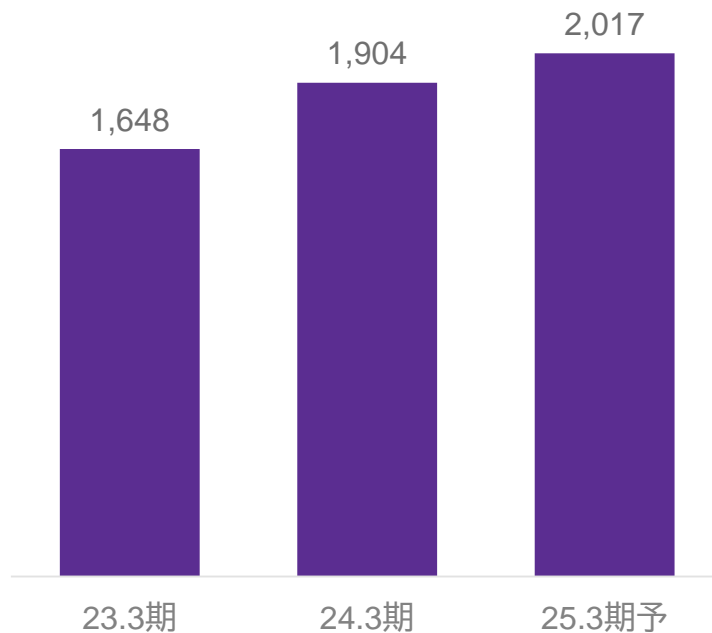
(単位：百万円)

		24.3期		予想	25.3期	
		実績	構成比		構成比	増減率
連結	売上高	4,770		4,852		1.7%
	営業利益	596		857		43.7%
	営業利益率	12.5%		17.7%		
組織培養事業	売上高	1,904	39.9%	2,017	41.6%	6.0%
	営業利益	609	102.1%	605	70.6%	△0.6%
	営業利益率	32.0%		30.0%		
細胞加工事業	売上高	1,209	25.4%	1,392	28.7%	15.1%
	営業利益	472	79.1%	518	60.4%	9.8%
	営業利益率	39.0%		37.2%		
微生物事業	売上高	1,656	34.7%	1,442	29.7%	△12.9%
	営業利益	△69	△11.6%	174	20.3%	-
	営業利益率	-		12.1%		

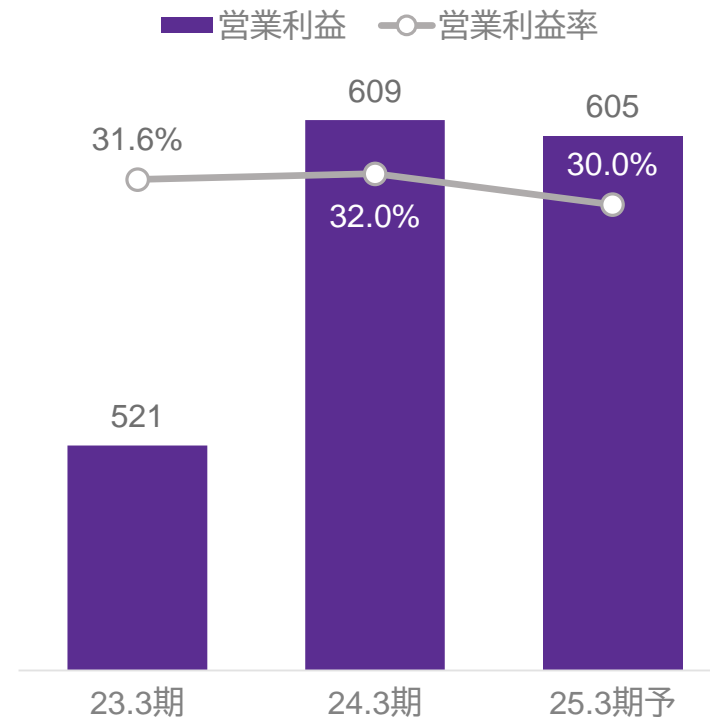
## 組織培養事業

- 国内外における再生医療市場の継続的な拡大に加え、インバウンドによるメディカルツーリズムの増加により、自由診療領域での細胞治療や免疫治療に関する市場がより活発になるものと考え、増収を見込む

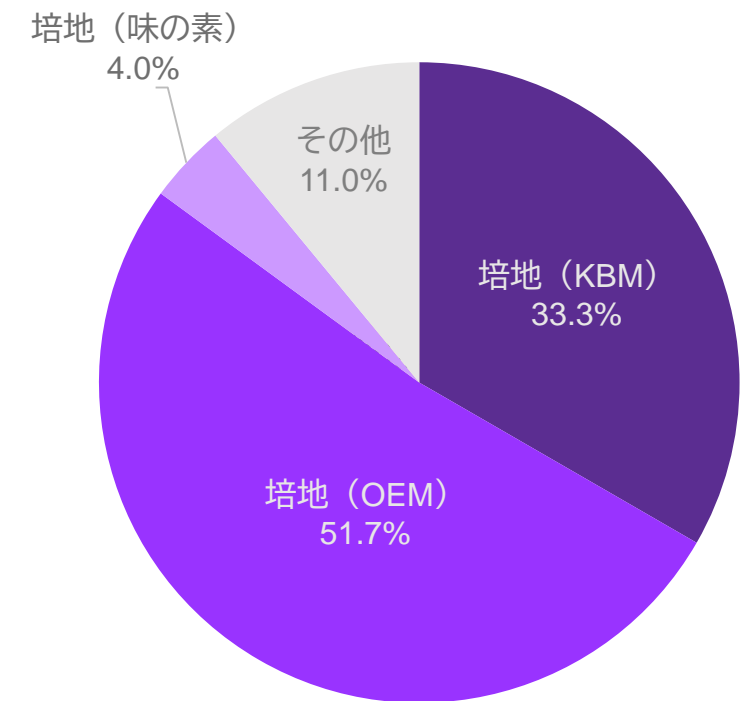
### 売上高 (百万円)



### 営業利益 (百万円)



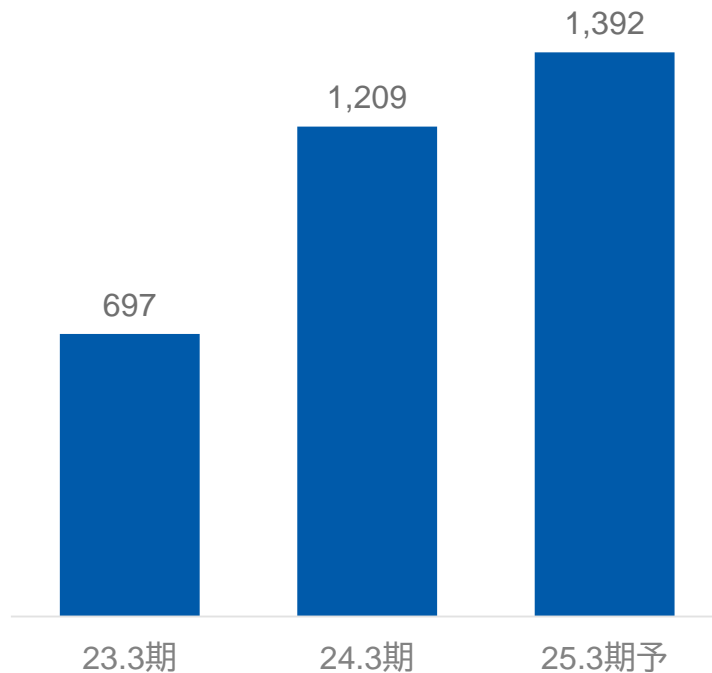
### 売上構成 (品目別)



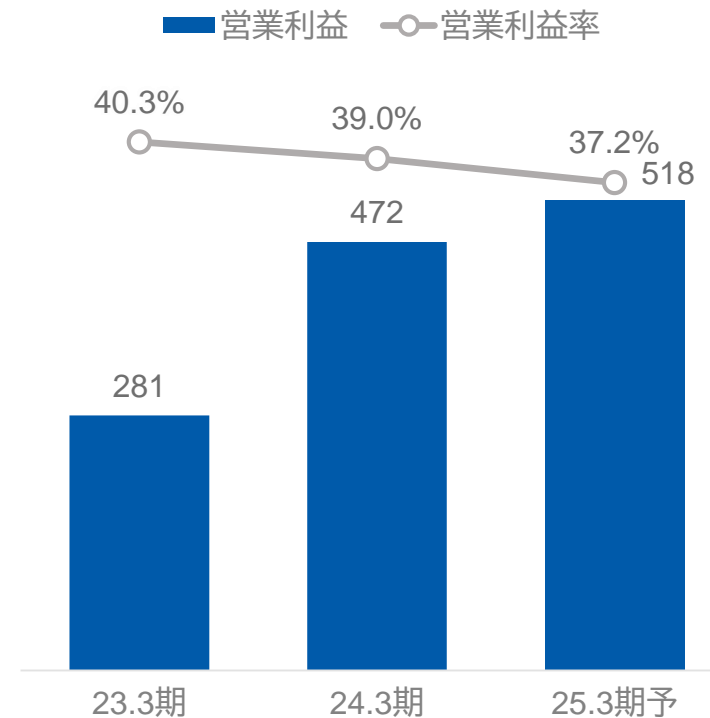
## 細胞加工事業

- 国内外における再生医療市場の継続的な拡大に加え、インバウンドによるメディカルツーリズムの増加により、自由診療領域での細胞治療や免疫治療に関する市場がより活発になるものと考え、増収を見込む

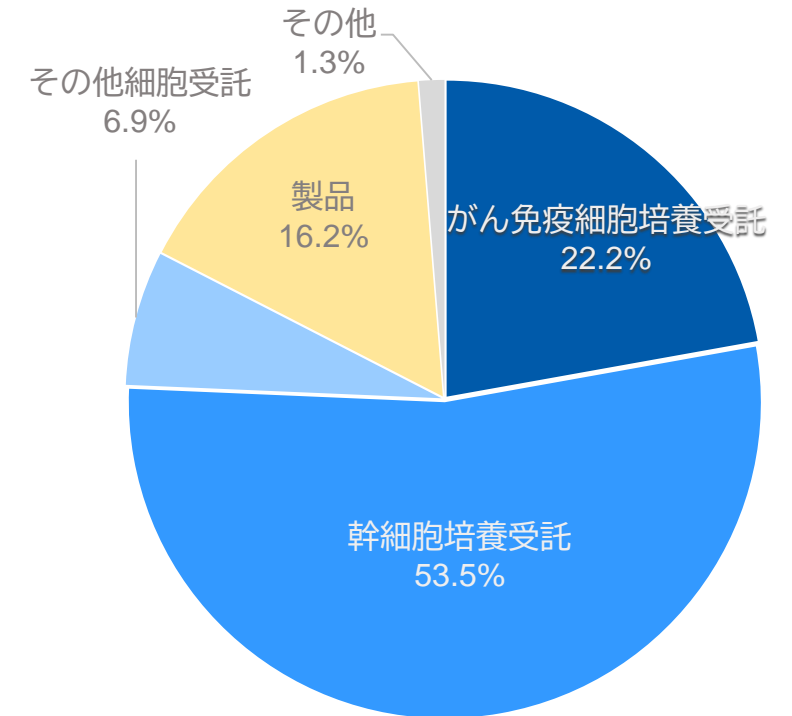
### 売上高 (百万円)



### 営業利益 (百万円)



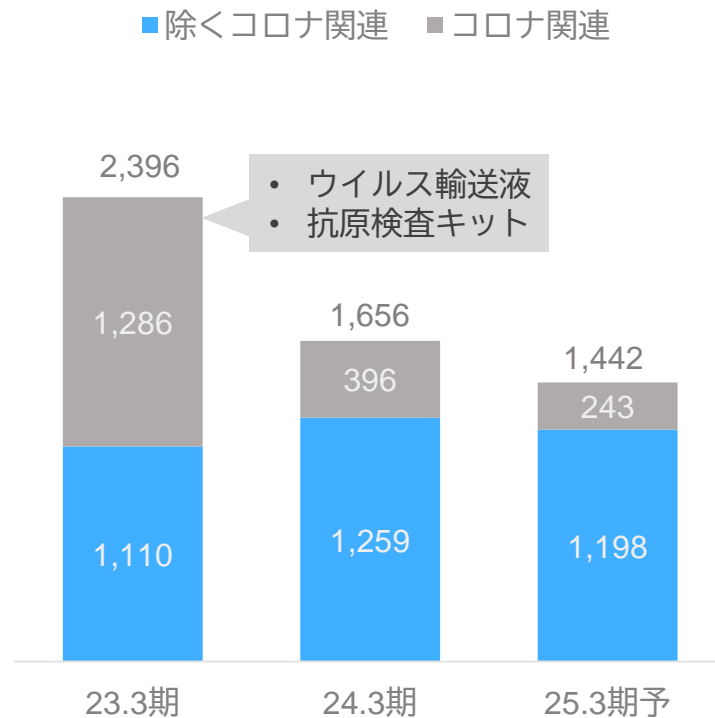
### 売上構成 (品目別)



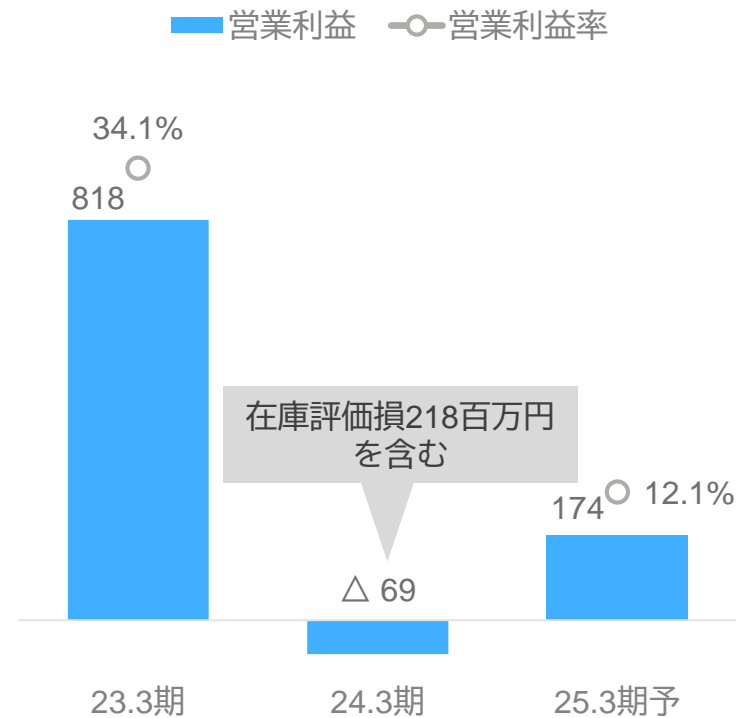
## 微生物事業

- 新型コロナウイルス感染症関連製品の需要減が継続することを想定し、売上高の減少を見込む

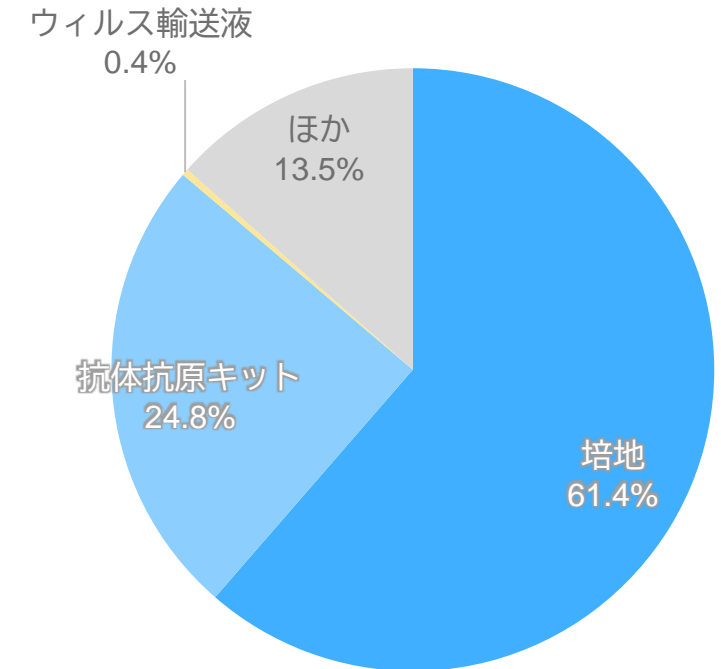
### 売上高 (百万円)



### 営業利益 (百万円)



### 売上構成 (品目別)





# IV

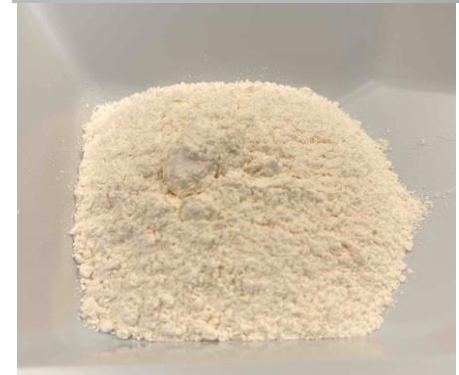
## 成長戦略





## 成長戦略① 細胞培養用培地製造アジアNo.1を目指す

### 種々の細胞に合致する製品の供給と、新たなニーズに沿う製品を開発

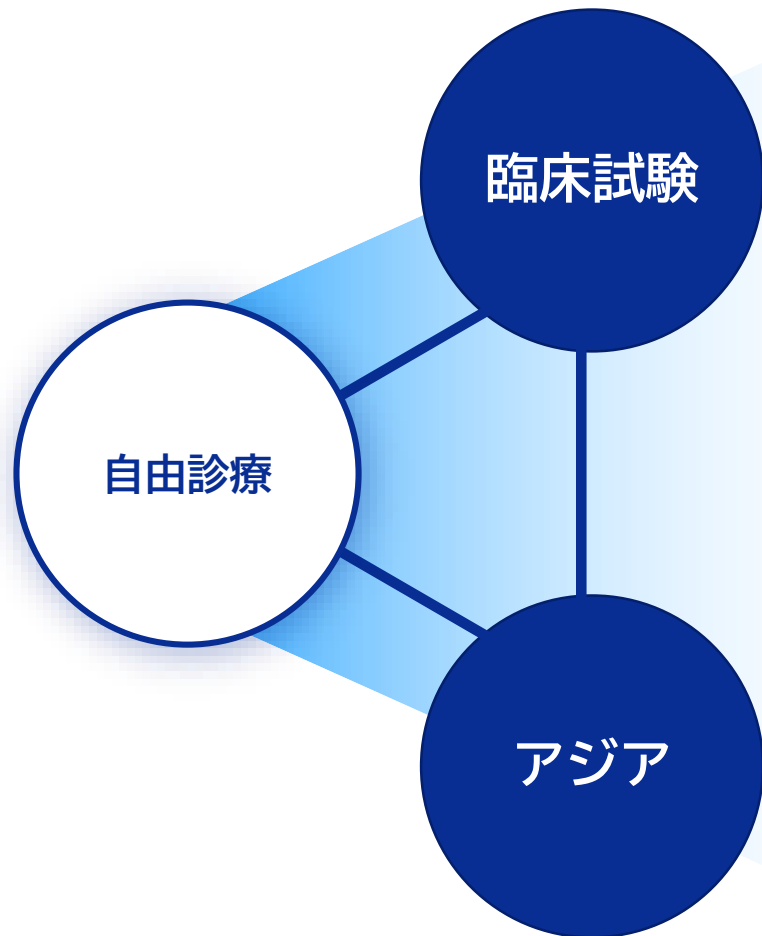


\*：出所）(株)グローバルインフォメーション市場レポート

：当社が想定する細胞培養用培地における最大の市場規模を意味しており、当社が2024年3月現在で営む事業に係る客観的な市場規模を示す目的で算出されたものではありません。TAMIは、一定の前提の下、外部の統計資料や公表資料を基礎として、当社が推計したものであり、その正確性にはかかる統計資料の推計に固有の限界があるため、実際の市場規模はかかる推計値と異なる可能性があります。

## 成長戦略② 細胞加工の再生医療展開

自由診療市場に加え、臨床試験市場へも進出し、海外展開も視野に成長を加速する



## 施策

- 設備投資の実施・ボトルネック解消：設備投資により生産能力を増強しバックオーダーを解消
- ニーズのある海外へのCPC拡大
- 海外渡航制限緩和によるインバウンド患者増加に対応
- 関節軟骨再生細胞治療製品を足掛かりに、細胞治療分野を開拓

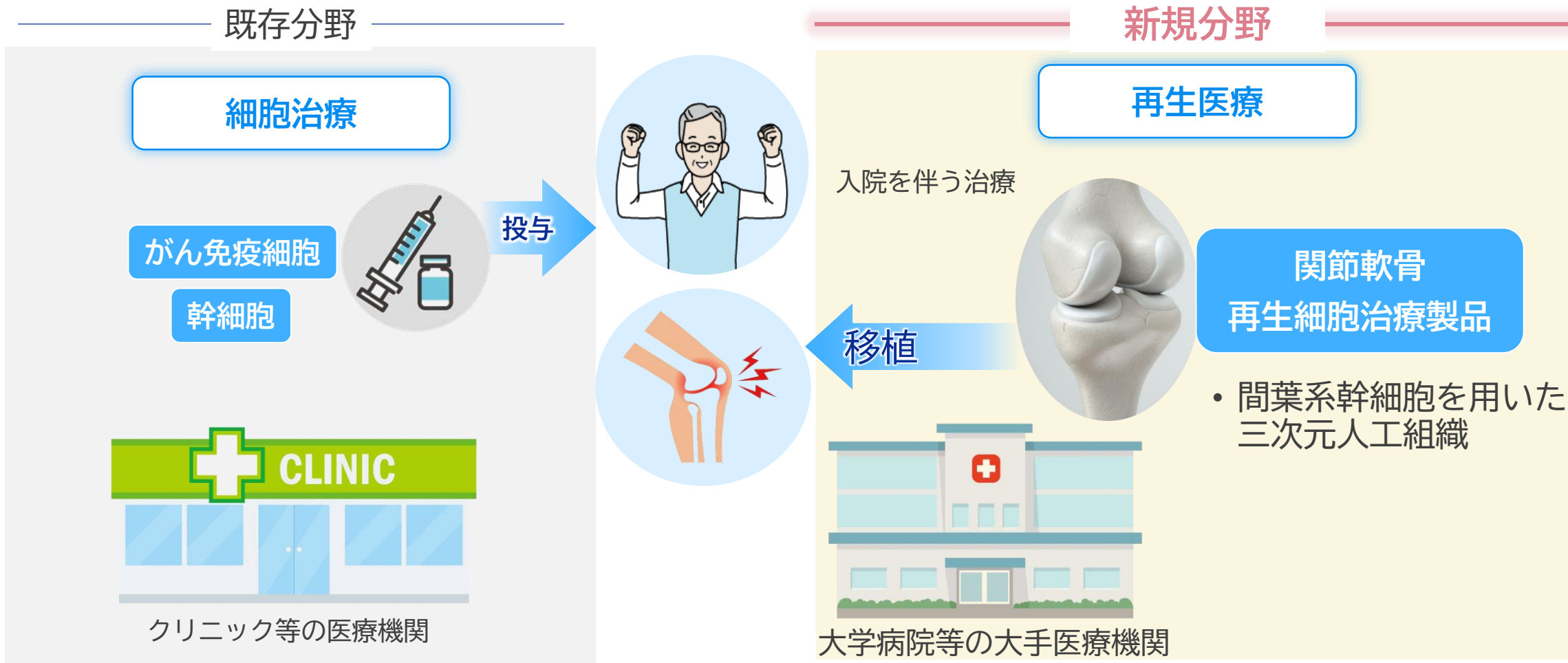
## 設備の導入

- CDMO事業に関するCPC施設の建設及び新規設備の導入
- 主に西日本管轄として広島にCPC開設



## 成長戦略② 再生医療への業容拡大

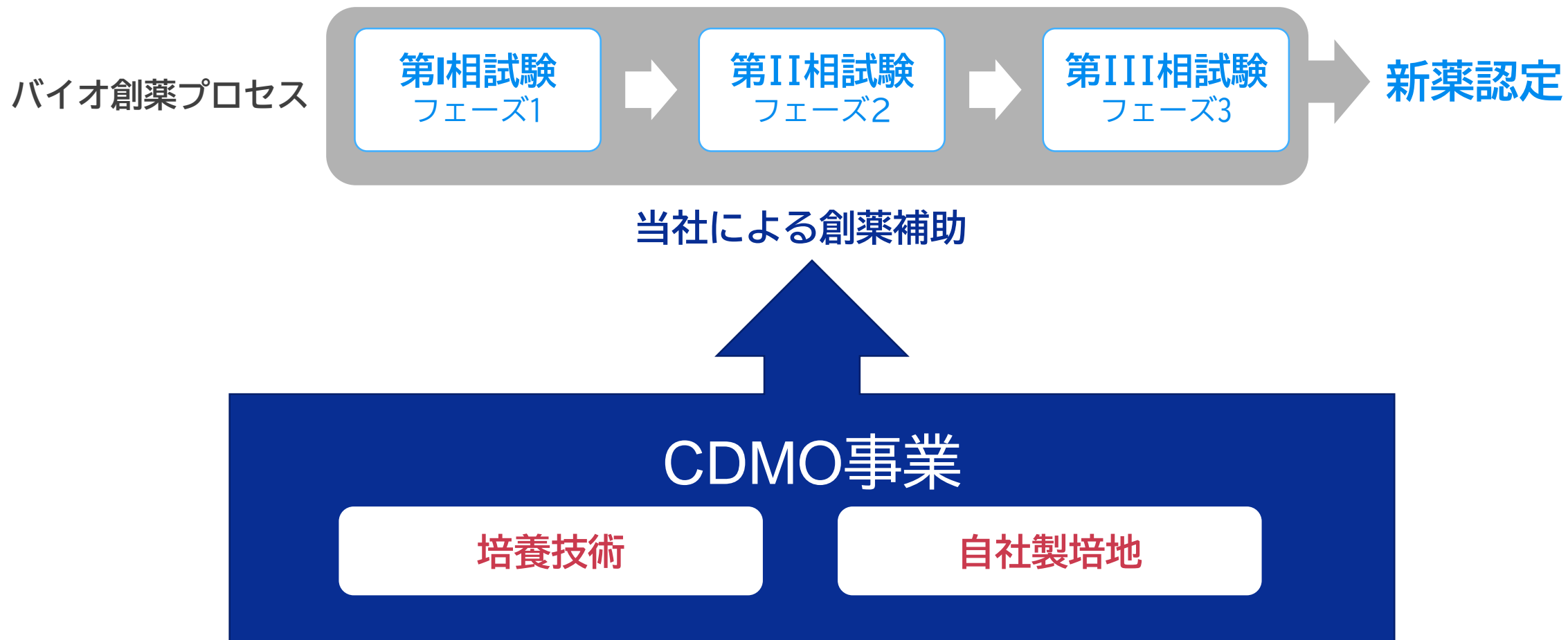
### さらなる差別化により、成長に弾みをつける





## 成長戦略② 細胞加工の再生医療展開

### CDMO事業により、バイオ創薬補助へ



成長戦略③ 抗原検査キットのグローバル展開

新型コロナウイルスの他にも、地球規模で問題視される感染症

# Malaria



医療用抗原検査キットの活用  
マラリア

- 世界で2億1,900万件以上検査
- 92%以上がアフリカ
- 6%が東南アジア
- 検査のほとんどが顕微鏡によって診断

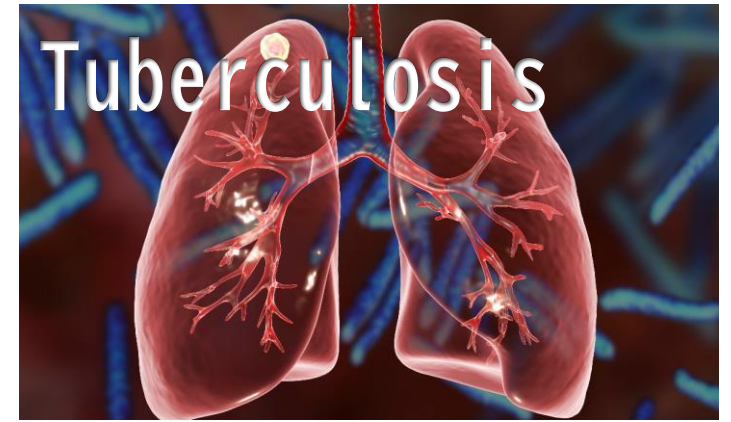
# Dengue



デング熱

- 世界で毎年3億9,000万人が感染
- デング熱検査の世界市場は2021年に5億2,813万米ドル、2027年までに7億2,245万米ドルに達すると予測
- 5.22%の年平均成長率

# Tuberculosis



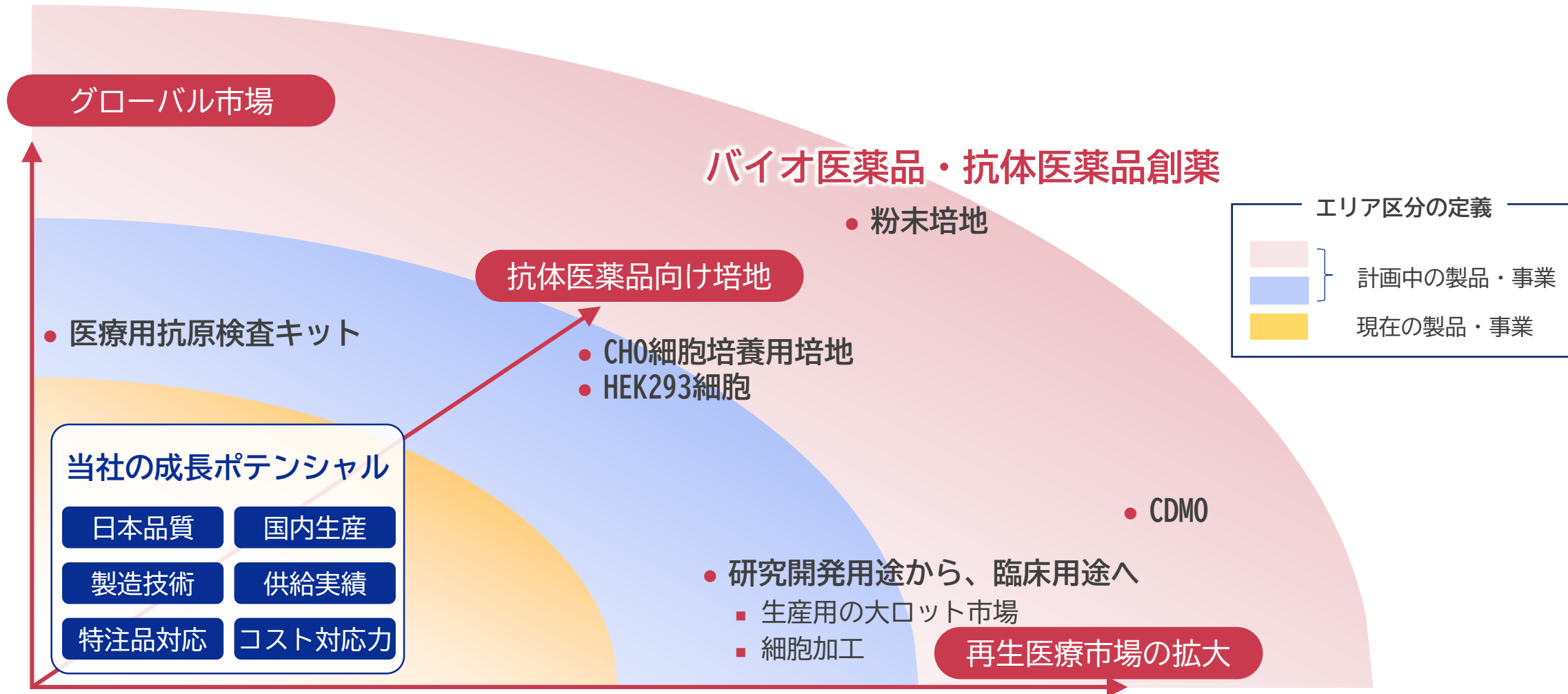
結核検査用培地  
結核

- 約17億人が結核に感染し、そのうち年間1,000万人が新たに発病し、160万人が死亡していると推定されている
- HIV 感染者が増加するなかで、結核との重感染者の重症化が心配されている
- 日本の患者数は11,519人(2021年)



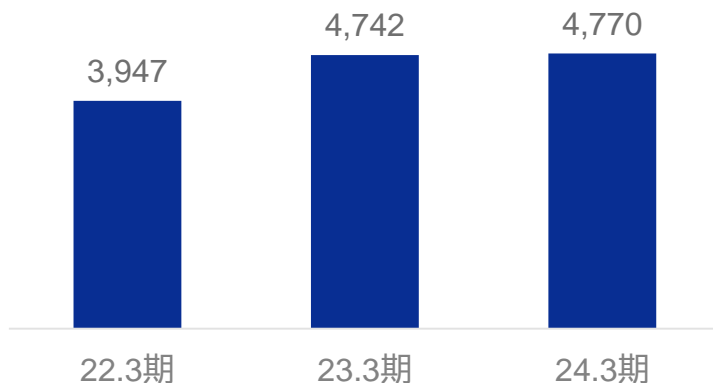
## 中長期の成長イメージ

各分野での量×質の向上により、飛躍的な成長が望める

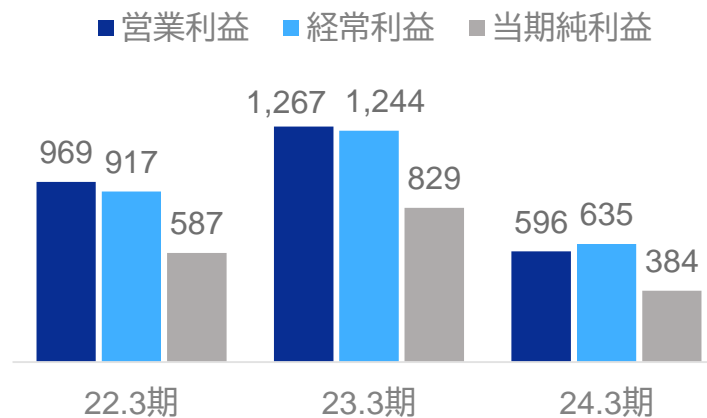


## 財務ハイライト (連結)

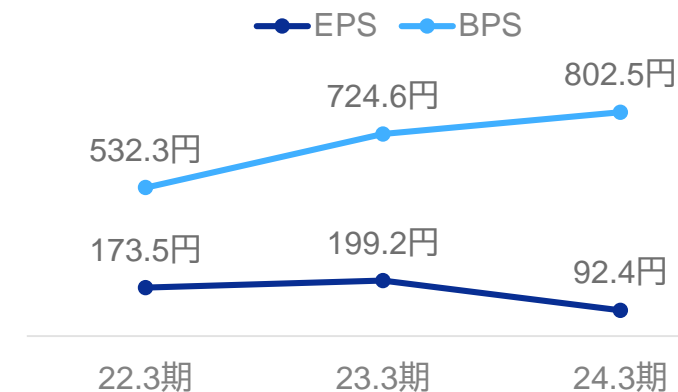
### 売上高 (百万円)



### 利益 (百万円)

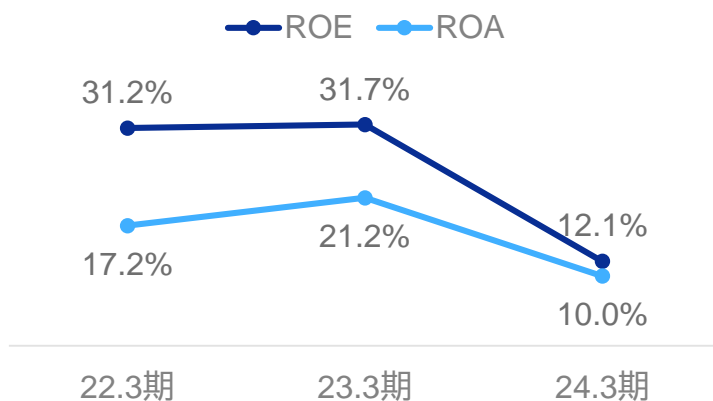


### EPS BPS (円)

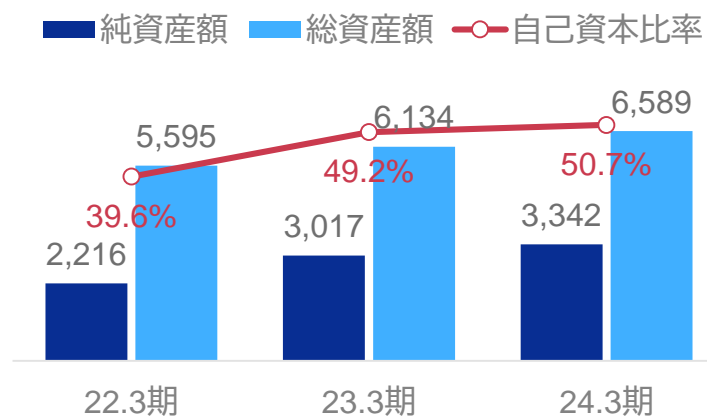


\*EPS=当期純利益÷期中平均株式数、BPS=期末純資産額÷期末株式数。  
 \*EPS及びBPSは、2023年3月9日付株式分割(1株⇒10株)後の株式数4,165千株にて算出。

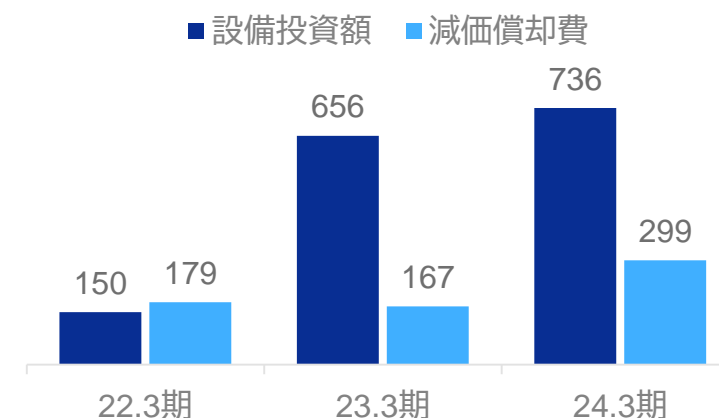
### ROE ROA (%)



### 純資産額、総資産額、自己資本比率 (百万円、%)



### 設備投資額、減価償却費 (百万円)



\*ROE=当期純利益÷期中平均自己資本  
 \*ROA=経常利益÷期中平均総資産